

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600361		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族柳津		
所在地	岐阜県岐阜市柳津町丸野5丁目47番地		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170600361-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

キャリアパスを職員全員で勉強して利用者様の幸せがご家族の幸せにつながり、私たち職員の幸せ・社会貢献にもなっていく。それを大切に思っています。コロナ禍で外出が難しい中、室内で体操・レクリエーション・ホームの周りを散歩したりを楽しんでもらっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、ホームを利用者と職員が共に暮らす「一つの家族」と捉え、支援に取り組んでいる。職員会議も特別な状況にせず、利用者が過ごす居間で行うなど、利用者を見守りながら支援について話し合っている。法人として、接遇委員会・レクリエーション委員会・介助力向上委員会・防災委員会と4つの委員会を作り、質の高い介護の提供を目指している。コロナ禍で外出は難しいが、職員同士が協力しながら、日々の勤務体制を整え、利用者が陽の当たるテラスで外気に触れたり、体操やリハビリを行うなど、心身ともに健康維持ができるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝礼・夕礼で唱和してキャリアパスで勉強したことを利用者様の幸せにつながるよう心がけている	理念は、職員全員が暗唱できるほど、常に意識している。さらに今年は、「チームワークでより良い介護を目指す」を目標として支援に取り組んでいる。チャレンジシートで、個々に目標を立て、自己評価を行いながら達成に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は難しいが距離を保ったあいさつ会話をしている またご迷惑をかけないように心がけている	新型コロナ感染対策の為、地域との交流がない状況ではあるが、近くの公園までの散歩中に出会う住民と挨拶を交わしている。両隣りとは、庭のフェンス越しに声かけをしたり、お願いごとでもできる関係である。	地域密着型サービス事業所として、隣り近所と行っている交流を、もう少し範囲を拡げられるよう、グループホームのアピールと共に、地域の協力を得られる活動に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんには今の状態をお伝えしているがコロナ禍で地域の皆様には難しい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為書面会議の形で利用者やサービスの実際を報告している	新型コロナ感染予防対策として、運営推進会議を書面会議としている。書面にて、事業所の行事や活動状況、利用者状況を報告している。構成員にはFAXや郵送で送り、意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括と連絡を取り事業所の実情を伝えられている サービスの向上の為研修も受けている	地域包括支援センターの権利擁護・虐待防止についての出前講座を受け、改めて気づいたことが多く、来年2月にも開催予定としている。新型コロナのワクチン接種についても、連携を図りながら実施し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアを理解している 玄関の施錠はしているが散歩や外気浴で開放的な時間を作っている	身体拘束委員会は、3ヶ月に1度、同法人事業所合同で開催し、各事業所の主任が参加している。事業所ごとに、現状や対応について話し合っている。当ホームでは、徘徊の恐れがある場合には、利用者の希望を聞き、職員が寄り添って外に出るなど、気分転換を図りながら、拘束をしないケアに努めている。	同法人事業所が合同で身体拘束委員会を開催している。各事業所の主任が参加して話し合っているが、会議の内容を全職員に周知できていない。今後は、全職員に周知し、一人ひとりの職員が共通した支援を行えるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括により虐待防止の研修を全事業所が集まり受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在学ぶ機会がないが管理者は自分の家族で成年後見制度を体験しているので職員に伝えていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族には契約前に面談を行い契約時には十分な説明をして納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者様の状況によってご家族に連絡。家族の意見要望を職員と共有。場合によってはかかりつけ医にも相談している	コロナ禍の今、家族の訪問も減っている。隔月発行の通信と利用者の生活便りを送付し、利用者の様子を細かく伝えながら、同時に意見を引き出すようにしている。家族から出た意見や要望を管理者と職員で話し合い、改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、朝礼・夕礼で職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	管理者は、職員の個人的な相談にも応じ、状況に合わせて対応している。代表者との面談も年に一度、行っている。管理者と職員は、ミーティングや申し送り時に、日々のケアで気づいた点について話し合いながら運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の勤務状況、家族状況をよく把握し、賞与給与家族手当など職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの勉強、外部の初任者研修、地域包括の研修と働きながら学ぶ機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で今は同業者との交流は難しいが外部での研修、地域包括の研修を受けてサービスの質の向上につなげている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族様と面談。困っている事、不安要望を聞き取り入所時のサービスにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必ずご家族の困っていることを要望を聞き取り入所時には安心して入って頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは受けていないが入所時に本人に一番必要なことを見極め、支援をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1日の中で家事の作業を職員と一緒にやり暮らしを共にしている関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会は難しいものの電話連絡はしっかり行っている。通院に関してはご家族に協力頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナがおちつけば面会やお墓参りなど再開していきたい	家族との面会は短時間とし、感染予防対策をした上で、玄関前のベンチで行っている。家族と利用者の希望を受け、電話でも話せるよう支援している。喫茶店や墓参りなどは、今も自粛しているが、馴染みの理容院による訪問は継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の身体状況や個性に合わせた席の配置をしている。レクレーションや家事の手伝いで支え合えるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもいつでも相談や支援をする用意がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングの場での職員の気づき、状態の話を聞き・記録・生活状態みながら、出来る限り本人の希望に添えるように努めてはいる	日頃から、利用者との会話の中で、思いや希望を聞いたり、やりたいことはないか声かけをしている。言葉に出せなくても、好きなことは積極的に動ける人が多く、見守りながら寄り添い、個々の能力を更に発揮できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	代表者が、入居前事前に面談を行い、生活歴など聞き生活環境等の把握に努め、伝達を受け確認及び情報提供書等の書面で確認している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りながらその時できる事をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングの場での職員の気づきを聞き、ご家族の面会時に話し合った事柄を伝達をもとに出来る限り現状に即した介護計画を作れるように努力している	計画作成者は週に1度事業所に入り、毎日の記録と職員からの聞いた情報を基に、利用者の行動や様子を観察し、介護計画を作成している。ミーティング時に、職員が把握している家族の希望も聞きながら、現状に即した計画づくりに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティング等・生活記録の確認などで情報交換している(随時本人の状態・疑問・変化を質疑・確認している)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の要望に合わせたサービスを提供出来るよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園、車の通らない堤防、みどりいっぱい土手など自然を満喫してもらえるよう散歩している(外気浴も)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃かかりつけ医の往診を受け必要があればご家族の協力を得て受診をしてもらっている	契約時に、かかりつけ医の選択ができることを説明している。協力医の往診と訪問看護師の訪問が、月に2回あり、連携しながら利用者の健康管理を行っている。専門医への受診は家族が行っているが、状況に応じて、職員が対応している。受診前後の情報は、医療機関と事業所、家族で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来てくれる訪問看護師に状況を伝え必要があればかかりつけ医に連絡してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍で面会には行けれないが電話で情報を聞き退院した時の生活に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期アンケートをとっている 重度化した場合はかかりつけ医ご家族経営者管理者と十分な話し合いを行い看取りの相談をする	利用者の身体状況に変化があった時に、家族の希望を聞き、対応について話し合いを重ねている。職員は、訪問看護師に食事や水分補給の指導を受けながら支援し、家族と連絡を取り合い、利用者がその人らしく穏やかに過ごせるよう、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けた職員はいる。その他の職員はキャリアパスで救命対応の勉強をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練をしている 防災委員でも常に地震水害の対応を考えている	年2回の防災訓練を実施している。近くに一級河川境川が流れ、事業所裏には小さな小川もあり、水害に向けての訓練も行っている。避難場所については、建て替え予定の同法人事業所への避難を考えており、移動方法など、詳細を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんによって食事の声掛けトイレ介助口腔ケアなどその人に合わせた言葉で対応している	利用者に声かけをする際は、「さん」付けで名前を呼んでいる。長い付き合いで、馴れ合いになることのないよう、職員間で注意し合っている。利用者一人ひとりの個性や性格などを考慮しながら、思いを把握し介助や対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の生活が介助側のペースにならないよう本人の思いで過ごせるように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんと一緒にレクリエーションをやる方で部屋で過ごしたい方とそれぞれのペースで1日を過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの個性で服を着てもらっています。散髪の要望があれば訪問理容にきてもらっています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みと咀嚼力に合わせた配膳をしている かたづけを出来る方には手伝っていただいています	同法人事業所が近くにあり、ご飯と汁物以外は、まとめて調理した物が届けられ、利用者の状態に合わせた形態で提供している。利用者は、できる範囲で、職員と共に準備や片づけなどを行っている。干し柿やおはぎなどのおやつ作りも、職員と一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病や腎臓の悪い方がいるので塩分や食事量に気を付けている。水分は1日1200CCくらいです。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後夕食後に口腔ケアを行っている 2名の方には月2回歯医者への往診で口腔状態を見てもらっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの自立は5名です。そのうち2名はリハビリパンツチェックをしている。3名はトイレ介助。オムツの方は1名です。	昼間はトイレでの排泄を基本に支援している。夜間は、安全面を考慮し、ポータブルトイレを使用する利用者もある。職員は、業者による研修で正しい排泄用品の使い方を学び、利用者が、日々、快適に過ごせるよう実践し、排泄の自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールにはペースト食、野菜ジュース、オリゴ糖など活用。便秘薬は医師と相談して調節。便秘改善につながっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているがその日の体調やその日の気分で強制的に入れることはしていません	入浴は、季節によって違うが、週2～3回を基本に支援している。入浴を拒む利用者には、入浴の順番や同姓介助の希望に応じるなど、声かけ方法やタイミングを工夫している。入浴時に、好きな服を選んで着替える利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方と昼寝を好まない方いるのでそれぞれに合わせた過ごし方をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者さんの身体状況に薬の目的をよく確かめ医師と相談して調節してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全面的に介助側がやってしまうのではなく洗濯や洗濯たみなど一緒に作業を心がけている 体操カラオケなど楽しむ時間をもうけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気とその日の気分によって散歩かテラスの外気浴をもらっている ご家族の協力はお墓参りなどです 事業所ではお花見もみじがりのドライブに行きました。	新型コロナ感染予防のため、外出を制限しているが、対策をした上で、近くの公園まで散歩をしたり、堤防を歩いたりしている。ホーム南側のテラスで外気浴をしながら本を読んだり、歌を歌うなど、戸外で過ごす時間を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいますがコロナで外出できないので使うことはありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今はコロナ禍で面会できない為電話をかけたりかかってきたりして会話してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には利用者手作りの作品が季節ごとに飾られる 玄関の前のベンチではくつろいでお話しできるようにになっており利用者さん手植えのお花もある	玄関は、車椅子でもスムーズに移動ができるよう改修され、部屋のリフォームも行っている。居間には利用者の作品を飾り、カラオケを楽しむこともできる環境である。テラスは広く、緑の木々が広がり、堤防を歩く人を眺めることもできる開放的な場所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有客間の中で気の合う利用者さんどうしておしゃべりしたり一人でいたい時はテレビを見たり塗り絵をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人手作りのちぎり絵をかざったり思い入れのあるタンスをおいて希望にそっている	居室の造りや窓の大きさなどは、部屋ごとに違うが、利用者が使い慣れた家具や日用品を持ち込み、手作り作品や好きな物を飾り、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープで安全に動けるよう外に出やすいようになっている		